

学生のPC所有に向けて

中部大学情報環境整備委員会

1 はじめに

「平成16年度入学生から、パソコンを所有させる」との大学の決定を受けて、本年1月に情報環境整備委員会が発足した。この委員会では、次の目標を定め作業を開始した。

- ① 学生のコンピュータリテラシーの向上
- ② 学生サービス情報伝達の効率化高度化
- ③ 教育のグローバル化への対応
- ④ その他、近年の社会情勢への対応

これらの目標を具体化するために、つぎの七つのワーキンググループ（メンバーは巻末に掲載）を編成し今日まで作業を行ってきた。

- (1) PC所有検討WG
- (2) 初期教育方法検討WG
- (3) 教室のIT化検討WG
- (4) ネットワーク検討WG
- (5) eラーニング検討WG
- (6) 学生サービス検討WG
- (7) 倫理とセキュリティ検討WG

これらの目標を実現するには長期にわたる作業を必要とするが、ここではこれまでにそれぞれのワーキンググループで検討し、具体化できた内容について紹介する。

時々刻々の状況については、大学の広報誌「ANTENNA」で紹介しているので参考にさせていただきたい。

学生に推奨するPCのスペックと事後対応策がほぼ定まってきた。また、学生がPCを所有したときには、初期教育が十分に行なわ

れなければならない。当委員会のWGと情報教室の協力により、カリキュラムの改定を含めて作業が進んでいる。初期教育は前期一斉開講が必要であり、複数クラスの並列開講となるため、講義室の整備が行われている。

教室の整備については、各教室のマルチメディア化およびネットワークが欠かせない。初期教育の実施を当面10号館で行うこととし、教室の整備を今夏および来春の2期に分けて実施することとし、すでに今夏計画分は工事が完了した。

また、学生の各種相談に応じるために、そのコーナーとして10号館1階のラウンジの一角を使用することも検討されている。あわせてラウンジ等の自習空間におけるネットワーク接続が検討されている。

これらの環境の下で初期教育が実施されたあと、さらに継続的に学習するための方策として、eラーニングシステムの在り方が検討されている。

一方、学生サービスとしてシラバスや履修申告のオンライン化計画が着実に進んでおり、所有したPCの活用が盛んになるであろう。

さらに学生がPCを所有すれば、それを活用するにあたって、社会的規範の順守と所有PCのセキュリティ対策が必要である。

以上の視点から各WGで進めている作業について報告する。

2 PCのスペックと事後対応

PC所有検討WGでは月に1～2回程度のミーティングを開催し、平成16年度入学生が所有するパソコンの構成および日常的に発生が予想される相談や故障への対応を検討してきた。これまでの経過を報告する。

2.1 ノート型パソコンの概要

前述の目標を満たすためのパソコンは高度なものではなく、シンプルなものでよいと言える。ただし、4年間にわたって使用することを考慮し、学生に購入を奨めるパソコンはやや余裕を持ったスペックを定めた(表1)。

表1-ノート型パソコンの基本スペック

C P U	1GHz 以上
メモリー	256MB 以上
ハードディスク	30GB 以上
ディスプレイ	12.1 インチ以上 (1024×768)
ネットワークインターフェイス	10/100BASE-TX
外部メディア	CD-ROM 以上の機能

表1の仕様および性能を前提に適切な機種を選択し、平成16年度の大学推奨ノート型パソコンとする。具体的な機種決定は、最新型のモデルが発表される時期を待って行う。修理等の対応の迅速な国内有名メーカーの製品を予定している。複数の機種を用意し、学生が好きなものを選択して購入できるように準備を進めている。

なお、基本スペックを満たすノート型パソコンを所有している学生は、新規に購入する必要はないものとする。(基本スペックの各項目の確認が困難な場合は、『Windows XP プレインストールモデル』の機器を目安とする)

2.2 ソフトウェアの概要

学生のノート型パソコンに予め準備しておくべきソフトウェアは、全学部・学科の教育

に共通して必要なものとして、次のものが決定している。

表2-導入予定のソフトウェア

分類	名称
OS	Microsoft Windows XP
ワープロ	Microsoft Word2003
表計算	Microsoft Excel2003
プレゼンテーション	Microsoft PowerPoint2003

既存のパソコンを使用する学生については、各ソフトウェアのバージョンには言及せず、不足するものがある場合は、該当するソフトウェアのみ購入し追加することとする。

なお、ソフトウェアについては、費用の一部を大学側が援助し、提供する予定である。

2.3 購入手続き

ノート型パソコンの具体的な機種が決定した時点で、平成16年度の入学試験合格者に購入申込書を発送し、注文を受ける。学生へのノート型パソコンの受け渡しは4月初旬から中旬を予定している。大学での受け渡しのほか、学生の希望に応じて自宅への宅配サービスも検討中である。

2.4 故障、盗難への対応

ノート型パソコン購入後の故障、盗難への対応策として、保守契約プランおよび動産保険プランへの加入が考えられる。パソコンの購入申込書とともに、これらのプランの案内を送付し、任意に加入を推奨する予定である。

2.5 相談窓口

学生アルバイト等の相談員および販売店のスタッフが常駐する相談窓口の設置を大学側に提案している。操作法の質問、印刷、サプライ品の購入など、学生が必要とするパソコン関連のサービス拠点にしたいと考えている。

(PC所有検討WG)

3 初期教育のあり方

平成16年度入学生より全員がPCを所有することになれば、初期教育がこの事業の成否の重要な要素になる。現在の「情報処理入門」は34クラスを前期と後期に分け開講してきたが、入学時に全員がPCを所有した場合には、「情報処理入門」の前期一斉開講は避けられない。また、「情報処理入門」はこれまで学術情報センターで、整備され、統一されたPC環境で授業を行ってきたが、全員がPCを所有することになると、学生自身がPCの維持・管理をできるようにすることや、情報倫理やセキュリティの教育がこれまで以上に重要になる。

これにあわせて、教育内容についても再検討をする必要がある。また、以前より、「情報処理」という名称から何を教育する科目かわからない、という意見もあり、テキストの副題には「コンピュータ入門」とつけてきた経緯から、平成16年度より「コンピュータ入門」と名称変更をする予定である。

さらに、その後の教育との連携もスムーズにできるように検討することも大切である。その一つとして、「情報処理入門」の教育内容の変更にもなう不足分を補い、さらにスキルアップをはかるため、新設科目「コンピュータ活用」を検討している。

当WGにおいては、これらのことについて検討をし、平成16年度から実施する教育内容を以下のように計画している。

3.1 コンピュータ入門

学生のPC所有にともない、その初期教育として1年生を対象に各学科毎にクラス分けをして、前期一斉開講することを検討している。

この授業では、所有したPCを自分で維持

管理ができる能力の習得が狙いであり、つぎのような内容が検討されている。

- (1) PCの基本操作と各種機能の設定
 - (2) データの入力、加工、保存
 - (3) 電子メール
 - (4) Webによる情報収集
 - (5) ソフトおよびファイルの管理
 - (6) 情報倫理とセキュリティの理解
- (5)と(6)は(1)～(4)の中で適時に織り込む。

なお、平成15年度以前入学の学生はPC所有を前提とするこの科目が受講できなくなるため、現在の「情報処理入門」は平成16年度に限り、数クラスを開講する予定である。

3.2 コンピュータ活用

「コンピュータ入門」に続いて、1年生後期に開講を予定しているこの授業では、日常の学生生活において、所有したPCを十分に活用できる能力を習得することと、それを通して問題発見、解決型の教育をすることが狙いである。現在情報教室で内容を検討中であるが、おおよそつぎのような内容になる。

- (1) 文書作成（ワープロソフトの活用）
- (2) データ加工（表計算ソフトの活用）
- (3) プレゼンテーション

この科目の開講形態など詳細については、現在検討中である。なお、これら2科目の履修のみにとどまることなく、学生が自由自在にPCを活用するために、先生方には学生がPCを活用する機会（たとえばレポート提出など）をできるだけ多く設定していただくことを期待する次第である。

当WGおよび教育を担当する情報教室のスタッフとしては、学生が在学期間中、常にPCに接し、有効に活用して、十分なスキルを習得して卒業することを願っている。

(初期教育方法検討WG)

4 講義室のIT設備

平成16年度からは、入学生を対象にノートパソコンの所持が実施される。

そこで、新たな事態に対応するために講義室の整備計画について立案・実施された。

今回対象となる設備は10号館の4つの講義室(1023, 1024, 1033, 1034)になる。当該講義室では、黒板を活用した従来の講義やマルチメディアを活用した講義ができる。さらに、受講生がネットワークへ参加できる環境も備っており、よりバリエーションに富んだ講義も可能である。

ここでは、当該講義室に設置された設備(以下、IT化講義室と称す)について説明する。



4.1 IT化講義室の特徴

IT化講義室では、パソコンやビデオなど複数の入力装置を黒板の両側に設置された2つのスクリーンへ別々に投影することができる。また、必要に応じて講義風景を録画することもできる。これらの操作は、教室の中央に設置された操作卓内の操作パネルを選択することによって実現する。

操作卓内には、パソコン・書画カメラ・VHSビデオデッキ・DVDプレイヤーおよびDVDレコーダーが備わっている。備え付けの装置以外にも、ノートパソコンやポータブルビデオ

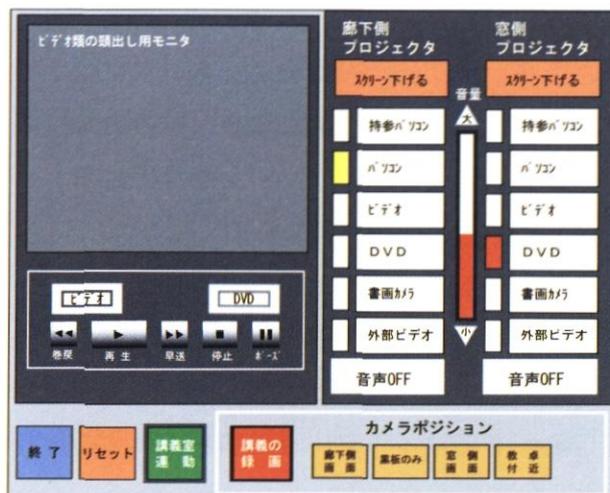
などが接続できる。操作卓に設置したノートパソコンは、ネットワーク接続が可能であり、平成16年4月からは学生もネットワークへ参加することができる。

操作卓には、電磁ロック機構が備えられており、この電磁ロックを解放することによって、各種装置が利用できるようになる。電磁ロックを施錠すれば、各装置が自動的に停止する。



なお、マイクロフォンのみで使用する場合には、電磁ロックを解放する必要はない。操作卓中央の上部にあるカバーを開き、接続ジャックにマイクロフォン端子を差し込むだけでよい。また、ワイヤレスマイクでの利用も可能である。

操作パネル



パネル右側（2列）のボタンを押すことによって、選択された映像がプロジェクタから投影される。左右のスクリーンには、別々の映像を投影することができる。

4.2 各装置の主な仕様

(1) ノートパソコン

東芝 DynaBook SS 3500 TabletPC

ハードウェア

CPU	Pentium III-M 1.33GHz
メモリ	SDRAM 256MB
LAN	10/100Base-TX
グラフィック	1024×768(1677万色)
スロット	USB2.0×2 1ポートは使用済み
周辺装置	MO (2.3GB 対応)
	DVD (DVD-RAM, DVD-R, DVD+R 他) /CD-ROM
	FD

ソフトウェア

基本ソフト	WindowsXP TabletPC
アプリケーション	OfficeXP professional
ウィルス対策	ウィスルバスター
フリーソフト	Netscape Navigator 他

今回導入したパソコンは、タブレット機能付きのものである。次期バージョンの office ではタブレットの機能を十分に活かすことができるため、平成16年4月からは、この新しい office を導入する。

(2) 書画カメラ

エルモ HV-400XG

撮影領域	[最大] 横:364mm 縦:271mm [最小] 横:179mm 縦:135mm
カメラ	85万画素 プログレッシブ CCD
	カメラヘッドか移転機能
	10倍ズーム

参考：A4サイズ：210mm×297mm

(3) ビデオデッキ

panasonic NV-SV120

(4) DVD プレイヤー

Panasonic DVD-S35

再生媒体	DVD-RAM
	DVD-R
	ビデオ CD
	CD-R/RW

(5) DVD レコーダー

Panasonic DMR-E50

記録媒体	DVD-RAM	XPモード	2時間
	DVD-R	SPモード	2時間

今回のIT化講義室の実現によって、平成16年度から開講される新しい講義についても充分対応できると考えている。

また、稼働率の観点においても従来の対面授業にて使用できるため、満足できる仕上がりになっていると考えている。

当該設備を有効活用することによって、本学の教育活動に寄与できれば幸いである。

(教室のIT化検討WG)

5 教育ネットワーク

『安全でかつ可用性・利便性の高い教育専用のネットワーク』をコンセプトに、以下のような事項に留意し、10号館を中心に教室のネットワークを実施する。

- ・ セキュリティ対策と利便性の実現
- ・ 運用・利用ルールの策定と実施
- ・ キャンパスと自宅との両用性

5.1 教室のネットワーク

ノートPCの利用者と教室により、次の4つの形態に分類し整備する。

- (1) 学生所有のノートPCを活用する授業を実施する教室（例えば、情報処理入門）

平成16年度からの情報処理入門を対象に10号館の4室を整備する。各机には情報コンセントと電源が既に設置されており、有線のネットワーク機器を中心に整備する。

- (2) 教員が主に利用する授業を実施する教室
10号館の各教室の教卓に情報コンセントを敷設する。

- (3) ゼミ等の教室

ゼミ等の少人数の授業では無線LANを活用する。

- (4) 自習や情報収集を行うための自習室

各建物の自習室に無線LANをベースに整備する。

5.2 教育ネットワークのポリシー

- (1) 教育専用のネットワーク環境

教室および自習室等のネットワークは教育専用とし、既存のネットワークとは論理的に独立させる。FireWallを介し基本閉鎖型ネットワークとし必要な通信のみを通す。

- (2) 利用責任を持たせるネットワーク

ネットワーク接続時の利用者認証は、不正利用を防ぐ必須アイテムであり、また正

当な利用者の立証情報としても有効となる。

- (3) 安全なネットワーク

ネットワーク機器やノートPCに対する攻撃の防衛と二次的な被害（踏み台等）の抑止が可能なネットワークを構築する。

- (4) 安心できるネットワーク

学外からのアクセス時にアプリケーションレベルではなくネットワークレベルでの暗号化を実施し、利用者にとって簡単で安心できるネットワーク環境を提供する。

- (5) 利便性の高いネットワーク

次のような技術等を導入し、安全で利便性の高いネットワークサービスを提供する。

- ・ ネットワーク設定の自動化（DHCP, DDNS等）
- ・ 学内外を問わないバーチャル環境の提供（VPN, SLL等）
- ・ ユーザID/パスワード管理の統合化
- ・ e-ラーニング環境でのマルチキャスト対応（マルチキャスト対応等）

5.3 整備計画等

10号館・自習室の基本的なネットワーク環境は、平成16年4月よりサービスを開始する。

ネットワーク接続認証でのユーザID/パスワードの運用管理等は重要な問題となる。利用者の利便性も考慮し、同時期にサービスが計画されている学生情報サービスや学生番号の再編成と調整する必要がある。

e-ラーニング等教育支援活動の基盤となるネットワーク環境の整備については状況に応じ柔軟に対応したいと考えている。

(ネットワーク検討WG)

6 継続的教育のあり方

当WGは、平成 16 年度の PC 所持にあわせ PC を有効に活用した自主的学習の環境作りを検討し、議論を進めてきた。

以下に、これまで調査および検討してきた内容と今後の方針について報告する。

e-ラーニングとは、頭文字の e に表されるように、electronic (電子的な)、つまりコンピュータやネットワークを利用した学習という意味である。情報技術を使うことにより、e-ラーニングはこれまで実現しなかったような新しい学びの形態を可能にしているものである。しかし、e-ラーニングは自主的な学習であるため、各個人がしっかりとした目標を持っている、もしくは学生がやる気になるような魅力あるコンテンツが提供されていなければその効果を十分発揮することはできないであろう。

このことをふまえ、平成 16 年度に向け次の 2 点を実現できるよう進めることとなった。

6.1 より充実した授業内容を提供

現時点においても、授業内容を中心とした Web ページを、教育用 Web サーバ (学術情報センター提供) または各個人の環境を利用し公開している教員も少なくない。しかし、これらの Web ページの存在を学生が認識し、十分な活用をするには至っていないようである。そこで、これらのコンテンツを学生にわかりやすくアクセスできるよう、大学全体としてまとめた表現ができるよう努力していく。

また、より充実した内容と学生が興味を持つコンテンツ提供ができるよう、情報技術を活かした新しい学びの形態を調査していく。あわせて、教員を対象とした教材作成支援についてもその必要性を調査し、必要であれば体制を検討していく予定である。

6.2 市販教材における提供

各種専門分野の学習や資格試験取得を目的とした教材は、これまでの調査において市販の e-ラーニングシステムを有効に活用することも 1 つの方法であり、かなりの効果が期待できると感じた。そこで、学術情報センターに導入している e-ラーニングシステムを利用し、6 月より試験的な運用を開始した。以下にその実施概要を報告する。

<実施概要>

- e-ラーニングシステムと動作環境
 - ・富士通 オンデマンド型学習システム「Internet Navigware」
 - ・学習できる内容
Word2002 (基礎)、Excel2002 (基礎)
PowerPoint2002 (基礎)
 - ・インターネットにつながった PC であればキャンパス・自宅からいつでも可能。
- サービスの対象：学生および教職員
- 利用について：ユーザ ID が必要となるため、次の要領にて順次発行。

Web サイトより申込み

<http://edu.isc.chubu.ac.jp/>

所属・お名前・E-mail アドレスを記入し、学術情報センターへ申込み

7 月末現在、教員約 50 名、学生約 40 名の利用申請があり、各自で学習を進めている。今後、現在利用しているユーザを対象とした、e-ラーニングによる学習についてのアンケート調査等を実施し、平成 16 年度の e-ラーニングシステムおよび、各種教材の導入検討を進めていく予定である。

(e-ラーニング検討WG)

7 学生サービス

『ITリテラシの向上、情報伝達の効率化、教育へのグローバル化』などを目標に平成16年度入学生より順次、PC所持が決定したことを受け、インターネットを利用してどのような学生サービスが提供できるか検討を開始した。また、時を同じくして『学生総合情報システム』の構築においてWebを利用した履修申告・情報伝達などのサービス拡大の検討も始まった。

『学生が求めるサービスとは』を基本に検討を進め、今後、サービスを予定しているホームページを利用した情報の公開およびWeb履修申告・シラバスについて簡単に紹介する。

7.1 キャンパスライフ情報

キャンパスライフをおくる上での様々な情報（手続き・ルール）は、入学時に冊子にまとめ通知しているが、何時でも、何処でもの手軽さ、便利さは、インターネット上の大学ホームページからの情報取得である。現在でもホームページには『キャンパスライフ、事務情報』として授業日程、課外活動、クラブ、奨学金制度などの情報が掲載されている。

しかし、最近のホームページを活用した在学生への情報公開の傾向は、『知らせたい情報、知りたい情報』を基本に、情報量が充実している。このような状況をふまえ、本学においても情報の公開・共有が一層図れるように

- 授業関係
- 学生生活関係
- その他、手続き関係
- 就職関連

などの情報を使いやすいコンテンツに分類し、内容を拡充していく予定である。

7.2 Webシラバス

開講科目数年間約1,500科目。原稿を科目担当者に依頼し、その原稿を学部単位に纏め、学生に毎年配布してきた。しかし、平成16年度からはインターネットを利用することにより、科目担当者はWeb画面からシラバスの作成・変更を行い、学生はネットワークに接続できる環境であればWeb画面上でシラバスを確認することが可能となる。

これにより学科・科目担当者をキーとしたシラバスの検索、掲載内容による全文検索も出来るようになり、さらに履修申告時には、曜日・時限毎に個人毎の受講可能な科目のシラバス検索が行えるようになるなど、格段に利用し易くなる。

7.3 Web履修申告

Web履修申告は、シラバスと連携したサービスの一つである。予め公開されたWebシラバスを確認し、指導教授による指導を受けながら次期履修計画を立て、履修申告時には、ネットワーク接続環境を得ることのできる所であれば何処でも好きな時間にアクセスして申告が出来る。

申告は、Web画面の時限枠をクリックすれば、その時間帯で履修可能な科目が表示され、選択・履修が可能となる。これにより以前のような科目のマークミス、履修できない科目の申告などの簡易なミスの解消でき、学年によっては進級・卒業要件に関わるチェックが行えるようシステム化されている。また、科目担当者には、申告期間内から要望が強かった受講者数・名簿が担当者自身により早期に把握、取得が可能となるなど手続き・処理の向上が図られる。

(学生サービス検討WG)

8 情報倫理とセキュリティ

8.1 情報倫理セキュリティに関する冊子

情報倫理とセキュリティ検討WGから発行する情報倫理セキュリティに関する冊子について紹介する。

始めにインターネットを利用する上での情報倫理について触れている。ここでは、電子メールで上手なコミュニケーションの取り方や電子掲示板を快適に利用するために気を付けなければならないこと、インターネット利用も実社会と同じであり、法律で罰せられることについて述べている。

続いてインターネット時代におけるその利便性や恩恵を受ける中で、それと共に存在する危険性とその対策について述べている。

コンピュータウイルスやハッキング（乗っ取り）などによる危険や脅威からパソコンを保護するために、セキュリティ対策の必要性を知ることが重要である。対策をしなければデータが破壊されるなどの大変な被害に遭う可能性があることや自分が被害に遭うだけでなく他人へ迷惑をかける加害者にもなり得ることを認識しなければならない。

Windows（OS）やWebブラウザ、電子メールソフトなどのソフトウェアは、かなり精査されているものであっても、バグ（不具合）が存在する可能性がある。

このようなバグを修正するためには、最新のパッチを当てる（不具合の修正する）ことで、セキュリティ・ホール（セキュリティ上の弱点）をふさぐことができることが多い。

コンピュータウイルスについては、種類毎の具体的な動作や被害、どのような対策をするべきかについて知っておく必要がある。

中部大学情報セキュリティ委員会にて作成されたポリシー&マニュアルより、学生向け

に抜粋し、中部大学の学生向けのセキュリティへの指針と実施として取り上げた。

ここでは、情報の管理は、自己責任にて管理し、情報機器および記憶媒体の処分方法など、情報の漏洩に注意している。

この冊子の利用については、インターネットを利用するソフトウェア（電子メールやWeb閲覧など）を使い始める前はもちろんのこと、その後、機会あるごとに使用されることが理想である。

8.2 セキュリティWeb

当WGとしては、流動的な情報について対応するために、セキュリティに関するホームページを作成し、学内向けの最新情報を載せ、啓蒙活動に利用する。内容としては、次のようなものである。

- ① セキュリティ情報（セキュリティパッチ情報など）
- ② 報告されているウイルス情報
- ③ IPAによるウイルス対策スクール（コンピュータウイルスについて学ぶ）
- ④ IPA 15分で学ぶウイルスビデオ（ウイルスによる被害と対策方法など）
- ⑤ フリーソフトでウイルスの対策方法
- ⑥ 最低限行うPC管理
- ⑦ その他（サポート）

8.3 今後の方針等

2003年8月に多数の感染報告があった「MSBlast」ワームなどは、セキュリティホール対策やウイルス対策などの認識の甘さが感染へとつながる場合が多かった。そこで、当WGでは、ウイルス対策ソフトやセキュリティホール対策、ファイアウォールの導入を促す啓蒙活動とサポート窓口などを用意していく方針である。

（倫理とセキュリティ検討WG）

9 おわりに

本プロジェクトは、多様な分野と部門の連携作業が欠かせない。今後とも全職員の理解と協力を仰ぐ次第である。

なお、この委員会の作業内容は、WebページとしてつぎのURLに掲載しているので参照いただきたい。

URL <http://i-mc.chubu.ac.jp/>

初期教育方法検討WGの報告で紹介したように、「コンピュータ入門」等の科目で順次リテラシー教育を実施するので、その進度に応じた課題の設定をお願いしたい。

また、学生の持つパソコンの機種やソフトウェアの種類およびバージョンは、個人ごとに異なることが予想されるため、個別の指導が必要になることが予想されるので、この点についても留意されたい。

学生のノート型パソコン所有を実施している他大学の事例を見聞するにつけ、実施初年度は種々の混乱が予想される。本学においても、初年度に発生した諸問題は次年度に改善するよう、段階を迫って成功へと導きたいと考えている。

全教職員が一丸となって、ノート型パソコンを有効活用した授業、キャンパスライフを実現できるように、協力を願う次第である。

おわりに、教育に業務に日々多忙な中、精力的にWG活動を行い、有益な議論と提言をいただいたメンバー諸氏に、委員長としてこの場を借りて感謝する次第である。

[情報環境整備委員会・WG名簿]

1. 情報環境整備委員会（岩田幸二）

三浦昌夫、田中豊茂、山田公夫、竹下享、吉田年雄、岡崎明彦、三浦真琴、山村正明、椎尾博、大澤孝雄、小太刀富雄、松原忠良、川尻則夫、石井和則、水島章次、飯嶋一弘

2. PC所有検討WG（山田公夫）

栗濱忠司、坂田宜子、龍岡亮二、坂野弘美、原田太津男、武田誠、槇田裕加、川尻則夫、平井慎治、清水幸子

3. 初期教育方法検討WG（山村正明）

水島章次、高橋道郎、西山琢也、栗濱忠司、坂田宜子、今村洋美、大門正幸、鈴木肇、西川鉦治、杉山恵子

4. 教室のIT化検討WG（山田公夫）

水野りか、坂田宜子、龍岡亮二、森上敦、岡部仁、河内利彦、水野昭彦、飯嶋一弘

5. ネットワーク検討WG（岡崎明彦）

尾関修治、鈴木肇、龍岡亮二、武知英明、福田基、川尻則夫、河内利彦、長縄克枝、村山文孝、岡部仁

6. eラーニング検討WG（三浦真琴）

竹中俊美、栗濱忠司、後藤英雄、櫻井誠、田中淳子、渋谷鎮明、杉本和弘、平田豊、藤吉弘亘、南基泰、杉山恵子

7. 学生サービス検討WG（川尻則夫）

園田浩詞、長縄克枝、可児俊典、大鷹隆弘、吉田浩隆

8. 倫理とセキュリティ検討WG（吉田年雄）

水島章次、高橋道郎、戸田優男、三輪錠司、袴田和幸、大門正幸、岡部仁、平井慎治

（平成15年8月末日現在）